

□議員名：大井 淳一郎

1 ヤングケアラーに対する実態把握と支援について

論点	本市はヤングケアラーの実態を把握しているか。
回答	実態把握のためのアンケート調査等を行ったことはないが、家庭児童相談を受けるなかで個々の実態を拾い上げ、関係機関と情報を共有し、支援を行っている。県の実態調査の結果を踏まえながら、引き続き子供の健全育成に努める。

論点	学校現場においてどのような支援に取り組んでいるか。
回答	ヤングケアラーを含めて悩みや不安を抱える子供に寄り添うことは非常に重要なことだと考えている。定期的な生活アンケート、教育相談、スクールカウンセラーの派遣や関係機関との連携など引き続き支援体制の充実に努める。

論点	どのようにして認知度を向上させるか。
回答	子供たちと身近に接する周囲の大人が適切に認識することが早期発見、サポートにつながると考えている。子育て支援ネットワーク協議会で情報交換や研修会を行うなど啓発活動に努める。あわせて市民に対する啓発についても模索していく。

論点	ケアラー支援条例を制定する考えはあるか。
回答	ケアラー支援の在り方を考える際に指針となるものは必要と考えているが、現状では条例の制定までは考えていない。しかし、本市においては、いきいきプラン21など様々な個別計画でケアラーに対する支援事業を個別に実施している。

2 公共施設における Wi-Fi 整備について

論点	本市の整備状況はどうか。
回答	昨年12月から市役所本庁舎など市内4カ所に公衆 Wi-Fi サービスを整備した。利用件数は毎月徐々に増えている。

論点	今後の整備計画についてはどうか。
回答	今月から利用者を対象に電子アンケートを実施している。その結果を参考に して新たな整備について検討を進めていく。

論点	地域交流センターへ整備する考えはあるか。
回答	地域交流センターについては、地域活動を促進するためのウェブ会議や講座 が行なえるような長時間かつ多量のデータ通信に耐え得るインターネット 環境が必要ではないかと考えている。担当課と調整しながら、地域交流セン ターに適したインターネット環境の整備に向けて検討を進めていく。

3 給付金等の送金事務について

論点	給付金等の送金事務の現状はどうなっているか。
回答	社会福祉課の職員と会計年度職員2名で事務処理を進めている。口座振込用 のデータを作成し、フロッピーディスクに保存、総合振込依頼書等の写しと ともに、指定金融機関に引渡し、口座振込日に対象者に給付金が振り込まれ る手順となっている。

論点	誤送金を防止するためにどのような対策を講じているか。
回答	振込データを作成した世帯は、再度振込データを作成できない仕組みになっ ている。また、指定金融機関にフロッピーディスクを引き渡す際には、支出 命令書のコピーを添付して正当な支払いであることの確認を行っている。

論点	フロッピーディスクからデータ伝送へ移行する考えはあるか。
回答	フロッピーディスクでのやり取りは人的なものになるので、少しでも人の手 が掛からないようなシステムで正確に支払い事務を行う必要がある。今年度 中に整備して、遅くとも来年度から移行できるような体制で準備を進めてい る。

4 職員の人材育成について

論点	人材育成基本方針の進捗状況はどうなっているか。
回答	職場内での研修や人事管理に加え、外部講師による職員研修、山口県ひとづ

	<p>くり財団など外部研修機関が実施する研修にも積極的に参加させている。民間事業者との人事交流等についてはできていないが、山口東京理科大学との人事交流を行ったところである。</p>
--	--

<p>論点</p>	<p>今年度「山陽小野田市次長・課長級職員研修事業」を実施する目的と内容は何か。</p>
<p>回答</p>	<p>次長・課長級職員の意識改革を促すことを目的としている。実施に当たっては、一方的な講義形式ではなく、グループワーク等による受講者間の意見交換などで理解をより深める内容にしている。</p>

<p>論点</p>	<p>これからの将来を担う若い職員の能力を発揮するためにどのような取組をしているか。</p>
<p>回答</p>	<p>職員の適性を見極めながら、意欲的な業務内容とするように目標設定してあげること、能力の発揮を支援していくことが必要と考えている。また、若手職員のアイデア、提案を促すとともに、それに対して積極的な評価をしてあげることが大事だと思う。</p>